

IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム  
第 3 回会合 議事録

1. 会合の概要

日時: 2021 年 6 月 28 日(月)17:00~19:00

会場: オンライン

主催: 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

参加者数: 19

参加者一覧(五十音順・敬称略):

飯田 陽一	総務省
上田 格	日本電気株式会社(NEC)
大内 朋哉	総務省
加藤 幹之	MK Next
兼保 圭介	NEC
上村 圭介	大東文化大学
木村 孝	JAIPA
高松 百合	株式会社日本レジストリサービス(JPRS)
武田 真理	総務省
立石 聡明	JAIPA
内藤 茂雄	消費者庁
八田 真行	駿河台大学
濱口 智美	総務省
浜田 忠久	JCAFE
堀田 博文	JPRS
本田 聖	
前村 昌紀	JPNIC
森口 友里	株式会社インターリンク
山崎 信	JPNIC

司会進行: 前村 昌紀(JPNIC)

議事録案作成: 山崎 信(JPNIC)

## 2. 資料：

1. 第2回会合議事録案
2. [IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チームチャーター案](#)
3. [IGF2021 事前イベント サブグループメンバー](#)
4. [プログラムの大枠の素案](#)
5. IGF2021 事前イベント 検討事項(イベント サブチーム)

## 3. アジェンダ：

### 3.1. 前回議論の振り返り→ 参照:資料 1

#### 3.1.1. 前回議論の振り返り

#### 3.1.2. 宿題の進捗確認

	状況	内容	担当	期日
1	中	以下資料の内容を確認の上、修正/追記する  ・日本におけるインターネットガバナンス関連活動の経験と課題< <a href="https://docs.google.com/document/d/1FS1lc-wFCxD94ITjD6TjKMvjUuFkh48Jrq8nBp20U5k/edit?usp=sharing">https://docs.google.com/document/d/1FS1lc-wFCxD94ITjD6TjKMvjUuFkh48Jrq8nBp20U5k/edit?usp=sharing</a> >	全員	6/28
2	中	全体ワークプランを確認し、各自意見を書き込む  < <a href="https://docs.google.com/spreadsheets/d/1lf9B9C4mwbg64jgzSeA7DQ_0oUZ-QjO-Qq67xGaVy1s/edit?usp=sharing">https://docs.google.com/spreadsheets/d/1lf9B9C4mwbg64jgzSeA7DQ_0oUZ-QjO-Qq67xGaVy1s/edit?usp=sharing</a> >	全員	6/28
3		IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チームのチャーター案を作成する	前村	6/7
4		IGF2021 事前イベントに向けたスケジュール案を作成する	高松	6/7
5		6/7 打合せを踏まえ、IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チームのチャーター案を修正する	前村	6/28
6		IGF2021 事前イベント プログラムの素案を作成する	堀田 兼保	6/28
7		立石さんにステークホルダーエンゲージメントチームへの参加声掛けを行う	前村	6/28

### 3.2. 本日の打合せの目的確認

- ・ チャーター(前回会合を受け修正)の内容確認
- ・ セッション募集のアウトリーチ先決め
- ・ IGF2021 事前イベントに関する検討(プログラム・イベント)

### 3.3. 資料「日本におけるインターネットガバナンス関連活動の経験と課題」の今後の作成の進め方について

### 3.4. IGF2023 ホスト(政府)としての検討状況報告

### 3.5. 本会議の位置づけ確認 → 参照:資料 2

#### 3.5.1. 本チームのチャーター案(更新版)についての意見交換

#### 3.5.2 チャーター作成の今後の進め方について

### 3.6. IGF2021 事前イベントについて

#### 3.6.1. 基本方針の確認 → 参照:資料 3

#### 3.6.2. プログラム検討 → 参照:資料 4

#### 3.6.3. イベント(ロジ回り中心)検討 → 参照:資料 5

### 3.7. 今後の進め方

- ・ TODO 確認

### 3.8. 次回打合せについて

### 3.9 その他

## 4. 議論の概要

司会の前村氏より、本日の資料の確認が行われた。次いでアジェンダに沿って議論が行われた。

### 4.1. 前回議論の振り返り → 資料 1

#### 4.1.1. 前回議論の振り返り

第 2 回会合議事録案(資料 1)の内容の概要を山崎と司会で説明した。次いで議事録案に参加者名を記載することおよび議事録を公開することについて、および各会議の録画を公

開することについて、参加者にこの場での同意を求めたが、コンセンサスには至らなかった。これに対し、立石氏より、日程を切ってそれまでに変更したい箇所を送付すればよいのでは、という意見の表明があり、特に反対はなかった。司会より、メーリングリストで議事録の内容を確認すること、および確認後ラストコールをメーリングリストで行うことが司会より表明された。併せて、山崎より第1回の議事録の承認も行ってほしい旨発言があった。

### 3.1.2. 宿題の進捗確認

司会より、コメント募集中の文書が次の通り紹介された。

- 日本におけるインターネットガバナンス関連活動の経験と課題(3.1.2. 宿題の進捗確認の1)
- ワークプランの枠組み(たたき台)\_v0.1(3.1.2. 宿題の進捗確認の2)
- IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チームチャーター案(資料2)

### 4.2. 本日の打合せの目的確認

チャーター案についての議論は、4.5で実施することとなった。

### 4.3. 資料「日本におけるインターネットガバナンス関連活動の経験と課題」の今後の作成の進め方について

堀田氏より、本日夜まで意見を受け付け、その時点のクリーン版を作成したうえでチーム全員に確認を依頼し、現時点の情報をfixしたい旨提案があった。特に異論はなかった。

### 4.4. IGF2023ホスト(政府)としての検討状況報告

飯田氏より、報告できるほど進捗はないが、各省庁の人事異動と新体制がそろそろ固まる状況であること、個別にはMAGおよびその中のワーキンググループの活動に参加していること、今後のIGFを見据えた体制を組んでいくことになるであろう旨発言があった。

### 4.5. 本会議の位置づけ確認 → 資料2

#### 4.5.1. 本チームのチャーター案について

資料2を基に、前村氏(チャーター案作成者)より説明があった。八田氏より、メンバー除名のところは、Contributor Covenant<sup>1</sup>を準用するといった記載にしてはどうかという提案があった。前村氏から、IGFの行動規範があるのではないかという意見があり、これに対し八田氏より、IGFの行動規範があることを確認したので翻訳して採用してはどうかという提案があった。

---

<sup>1</sup> Linuxカーネル開発などのオープンソース系プロジェクトが多く採用している行動規範。<https://www.contributor-covenant.org/ja/version/1/4/code-of-conduct/>

上村氏より、チャーター案の「最後の「b) NRI (Japan IGF) との関係」で「活発化チームの活動の中で、NRI (Japan IGF)のあり方も検討するものとする。」とあるということは、このチームは、少なくとも NRI ではないということか、というコメントがあり、それに対し前村氏より、「最終的に活発化チームが NRI になるのがよさそうと思っているが整理が必要」という考え方を採っているという返答があった。上村氏より、すっきりしない、例えば国連の IGF 事務局に対して本チームについて理解が得られる説明ができないのではないかと、とても内輪の議論感がする、という発言があった。司会よりの、こうすればよい、といった何かがあるか、という質問に対し、上村氏から、Japan IGF のコーディネーショングループ(CG)がなぜ単純に拡大しなかったのか、と最初から思っていた、つぎはぎ感が外部から見ると際立つのでは、本チームが何をするのか、IGF 2023 ホストとの活動連携が外部の人に説明できるのか、とのコメントがあった。前村氏より、CG で活発化チームをどう取り扱うか、CG の後始末を考える必要があるかもしれない、との意見が表明された。

また、前村氏から、メンバー除名については、文言を書き直したい旨、NRI のところについては文言レベルで修正できる範囲を超えているので、CG で検討することも含め一緒に考えたいとの意見が表明された。

立石氏より、チャーター中で 1 年毎に見直すとして書いてあるが、最低 1 年に 1 回と書けばよいのでは、というコメントが表明され、前村氏より承った旨発言があった。

#### 4.6. IGF2021 事前イベントについて

##### 4.6.1. 基本方針の確認／4.6.2. プログラム検討

プログラムタスクチームより、堀田氏が資料 4 を基にプログラムの大枠の素案に関して説明した。その中にはセッションの公募メッセージ案、募集要項案およびスケジュール案も含まれる。

立石氏より、プログラムが決まるまでの申請内容の公表／非公表については、応募者の選択に任せればよいのではないかと意見があった。

堀田氏より、IGF2021 事前イベントのテーマを設定し関連する提案を求めるか、何でもよいので提案を求めるのか、意見が求められた。それに対し、八田氏より、インターネットを再考する、再イメージするとしたらよいのでは、多くの人が問題意識を持っているテーマに関してセッションを公募しては、という意見があった。堀田氏より、公募の際にはテーマを縛らず公募してはどうかという提案があった。加藤氏より、例示したうえでそれには縛られないので応募してほしい、と書いた方がよいのでは、という意見があった。堀田氏より、加藤氏の意見を採用したい旨発言があった。

堀田氏より、公募に際してイベント開催日を決めるか、10 月下旬のような粗いものにするか問いかけがあった。立石氏より、支障しそうな日程の表明があり、堀田氏がそれを受けて具体的な日付は今決めず、例えば 10 月下旬から 11 月上旬のように幅広く書いておいた方がよいか、という問いかけがあり、特に反対意見はなかった。

堀田氏より、提案募集のお知らせと募集要項について、メーリングリストに送ったうえで、1 週間程度で内容を固め、7 月 5 日の週には広く送付し Web にも掲載する予定で進めたい旨が表明され

た。

#### 4.6.3. イベント(ロジ周り中心)検討

司会より、資料5に基づき説明があった。以下の点について司会が意見を求めた。

- (1) 主催団体は JAIPA、JPNIC、加えて一般財団法人インターネット協会(IAJapan)に打診中だが、他に声を掛けた方がよい団体があるか
- (2) 後援については総務省以外の省庁にも声を掛けるというアイデアはどうか
- (3) 開催日については他に考慮した方がよいイベントがあるか
- (4) 使用言語について、英語で参加してもよいような構造にするか、開催形態はオンラインかハイブリッドか
- (5) 会議プラットフォームはこれまで使ってきている Zoom でよいか

加藤氏より、(4)について、同時通訳をやるとなると、案内からはじめてすべての活動を英語でやらなくてよいのかということになり、現実的には大変なので、サマリーだけでも英語で得られるとよいのでは、という意見が示された。司会より、英語を話す外国の登壇者に門戸を開いた方がよいのでは、というコメントがあった。立石氏より、予算があれば同時通訳をつけるのでは、通訳は頑張れば付けられると宣言すればどうか、というコメントがあった。(4)の開催形態について、前村氏および立石氏よりそれぞれの団体での経験が話された。(3)の開催日は現時点では決めない方がよいのでは、と司会より提案があり、特に異論はなかった。(2)の後援については、飯田氏より内部で相談させてほしい旨発言があった。堀田氏より、主催・後援という枠組みでよいのか、他国の IGF では主催団体は存在するのか、というコメントがあった。上村氏より、NRI ではコミッティもしくはマルチステークホルダーステアリンググループ(MSG)のようなところが開催するという形が多いと思うが、今までの流れだと実質的には身元のはっきりした組織が主催団体になるということになるのでは、というコメントがあった。堀田氏より、MSG のようなものの下で事務局が動き、そのバックグラウンドとして組織がいるという感じにいる、というコメントがあった。飯田氏より、グローバル IGF に向けた準備の一環だと思うと、MSG が主催するのも従来の主催・後援のどちらの形態もあり得る、最終的には政府も含め皆がステークホルダーとして参画した協議会のようなところが主催するのが理想形で、それに向けた今回の建て付けは同様にするのか、一部のステークホルダーの取り組みを後援するのか、様々なパターンがあると思うのでできるだけ前向きな形に持っていきたい、との意見が表明された。

#### 4.7. 今後の進め方

次回会合のアジェンダとしては、各チームから検討状況が共有されることになり、プログラムチームからは本日の議論をもう少し詰めたものが出て来るだろう、エンゲージメントは出足が遅いが何らか書いてこようと思う、イベントの方も本日の議論をもう少し固めたものを、選択肢などを含めて持参するのではということと、「日本におけるインターネットガバナンス関連活動の経験と課題」に本日中にコメントをもらえると堀田氏がクリーンバージョンを作る際に助かると思う、チャーターも本日頂いたコメントを基にクリーンバージ

ョンを作成し次回持ち込みたい、と前村氏より発言があった。堀田氏より、プログラム公募案内と募集要項を 1 週間程度で皆さんにお見せするので見ていただきたい、との発言があった。

高松氏より、主要言語は日本語のみでよいか、という点はパネリストを呼ぶ際に影響するのでは、という問題提起があり、司会より、英語を使用するという提案が来た時点で頑張るといふことで、使用言語を日本語にするとは明示的に書く必要はないのでは、という意見が表明された。堀田氏より、公募時には言語のことは一切書かず、英語で来た場合は英語でパネルが問題なく進むかを審査員が考えることとし、主催／企画側が通訳を用意することはしない、という前提とする、でよいのではないかという意見が表明された。

次回会合は、3 週間後の 7 月 19 日月曜日 17 時から 19 時に開催することを決定した。

#### 4.8. その他

高松氏より、全体ワークプランについて意見を求めており、皆の意見をいただきたい旨コメントがあった。

以上